

令和7年度

第2・四半期の

年金資産運用状況

令和7年7月1日

～
令和7年9月末

3カ月間

運用実績

	資産区分	基本配分割合	当基金利回り	ベンチマーク
安定収益 資産 (34%)	国内債券	11%	▲1.38%	▲1.40%
	外国債券	23%	▲0.17%	▲0.15%
	計	34%	▲0.56%	▲0.56%
収益補完 資産 (66%)	高利回り債	20%	1.78%	1.89%
	国内株式	8%	10.88%	11.04%
	外国株式	8%	9.60%	9.72%
	その他(オルタナティブ)	30%	2.02%	0.99%
	計	66%	4.30%	3.50%
合 計		100%	2.55%	2.11%

当基金運用利回り(時間加重収益率)

第1四半期

第2四半期

2.08%

2.55%

令和7年度通算の当基金利回り

4.69%

※前年同時期の通期リターンは1.60%でした。

	運用資産額(時価)
令和7年9月末 運用資産額	37,682百万円
令和7年3月末比	1,336百万円

*令和7年3月末運用資産額363.5億円

市場環境

●国内株式

国内株式は、7月は日米関税合意により日本への相互関税が15%に縮小したことが好感されて上昇しました。その後の8月および9月も米国株高、米中関税協議を巡る緊張緩和、日米貿易合意による自動車関税の引き下げ、石破首相の辞意表明などを背景に上昇が続きました。

●外国株式

外国株式は、7月は日米・米欧の関税合意や米企業の好決算が好感されて上昇しました。その後の8月および9月もFRB(米連邦準備制度理事会)議長の利下げ示唆発言や追加利下げ観測を背景に上昇が続きました。

●国内債券

国内長期金利は、7月は参議院選挙結果による財政悪化懸念から上昇しました。その後の8月および9月も日銀の経済・物価見通しや利上げ観測を背景に上昇が続きました。

●外国債券

米長期金利は、7月は米国関税政策によるインフレ再燃懸念から上昇しました。しかしその後の8月および9月は雇用統計の大幅下方修正やFRB議長の利下げ示唆発言

■主要市場指標

	R7.6末	R7.9末	騰落率
日経平均株価(円)	40,487	44,933	10.98%
NYダウ(ドル)	44,095	46,398	5.22%
10年国債利回り	1.43%	1.64%	0.21%
米10年国債利回り	4.23%	4.15%	▲0.08%

※国債利回りの騰落率は利回りの変化幅

言を受けて低下しました。

独長期金利は、米欧関税合意や財政赤字拡大懸念から上昇しました。

運用利回り

●運用利回り

第2四半期の運用利回りは、内外株式の株高に加え、高利回り債やその他(オルタナティブ)のインカム収入がプラス寄与し、2.55%のプラスリターンとなりました。

●超過収益率

第2四半期の超過収益率は、その他(オルタナティブ)における国内不動産や損害保険等のインカム収入がプラスに寄与し、ベンチマーク対比0.44%のプラスとなりました。



■資産別超過収益率

資産区分	運用利回り	ベンチマーク	超過収益率
国内株式	10.88%	11.04%	▲0.16%
外国株式	9.60%	9.72%	▲0.12%
国内債券	▲1.38%	▲1.40%	0.02%
外国債券	▲0.17%	▲0.15%	▲0.02%
高利回り債	1.78%	1.89%	▲0.11%
その他(オルタナティブ)	2.02%	0.99%	1.03%
合 計	2.55%	2.11%	0.44%

※国内株式・外国株式・国内債券・外国債券の4資産については市場連動型のバスケット運用を行っており、基本的にはベンチマークとほぼ同じ運用利回りとなるはずですが、当該資産の売買のタイミング・頻度・金額等により若干の乖離が発生。

※その他(オルタナティブ)は特定の市場指数が無い場合、当基金では目標となる指数(ベンチマーク)を設定。年間:4.00%、四半期:0.99%(月次複利ベース)。